



文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた
両方の手のひらのバタニンによって
日本建築の重要な要素である斗供
(組みもの)のイメージを表し、
これを三つ重ねることにより、文化
財という民族の遺産を過去、現在、
未来にわたり永遠に伝承していくと
いう愛護精神を象徴したものです。

うんせんじ　まいどうぶんかざい 雲仙市の埋蔵文化財について こうじろくうじ　はっくつちょうさ ～神代小路の発掘調査～



しょうわ　ねん
昭和22年ごろ



ながさきけんうんせんしきょういくいんかい
長崎県雲仙市教育委員会

ひょうしづいげい　こうじろくうじ　ち　く　つるかめじょうあと　こうじろじょう
表紙背景「神代小路地区と鶴亀城跡(神代城)」

○神代小路地区について

神代小路地区は、雲仙市国見町神代に所在します。1608年に誕生する神代鍋島家の陣屋を中心として、当時のまちなみの様子が今に残る武家町として、平成17年7月22日、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。地区内には古民家や石垣・竹垣など、江戸時代の風情が薫る風景が広がります。地区の中心的な建物である神代鍋島家の陣屋、鍋島邸（旧鍋島家住宅）は、江戸末期の建物を基にして、明治・大正・昭和と改修・増築され現在の姿となり、貴重な歴史資料として、平成19年6月18日、国の重要文化財に指定されています。

○発掘調査したのはなぜ？

伝承によると、「神代小路地区は、神代鍋島家第4代当主鍋島嵩就により、河口や沼地を埋め立てて作られた」とされています。江戸時代の道路や住宅の区割りが、数百年間ほとんど変わっていないと考えられます。太平洋戦争後の近代化により、部分的に変わってしまった場所もあるようです。今回調査した部分は、まちなみの中央部分で、当時は「舟形」と呼ばれる直角に曲がる道路が交差する部分でした。現在は車の通行の利便性を考えて道路の位置が若干変わっています。

地区の防災のために防火水槽の建設が計画されたため、工事を実施する前に地下に残る江戸時代からの歴史を調査するために発掘調査を行いました。



「地固めの跡」の検出

○発掘調査のようす

調査は平成21年度に行いました。江戸時代の絵図面や明治時代の字図、昭和22年の航空写真などから、昔の建物跡や道路の跡などが見つかる事が予想されました。また、地区の方の中には、幼少のころ、当時の道路を実際に通っていた方もおられ、地区の中央部分の歴史の解明に大いに役立つ調査成果が発見されました。

調査地点の畠の土を30cmほど掘ると、道路の跡や石垣、江戸時代の茶碗や皿などが見つかりました。また、建物の基礎石は見つかりませんでしたが、基礎石の下の地盤を固めるための「地固めの跡」が見つかっています。江戸時代末期の建物である「鍋島邸の御北」も同様の「地固め跡」の上に大きな基礎石を置き、その上に建物の柱が建ててあります。



検出された道路跡

の証言とも一致し、道路幅も江戸時代から太平洋戦争後まで変わっていないと考えられます。また、道路表面をよく観察すると、表面に直径1cm~2cmほどの川原の丸い砂利が敷き詰められた痕跡があり、荷車の轍と考えられるくぼみも見つかっています。

発見された遺物は、江戸時代のものから昭和40年代のものまで幅広く見つかっています。建物があったと考えられる部分からは、江戸時代後半の茶碗・皿・花瓶・土製の皿・水滴（墨を磨る際の水入れ）など。道路脇の水路からは昭和のガラス瓶などが見つかっています。ウイスキーやビールの瓶、醤油の瓶など、いずれもほとんどが生用品です。



遺跡見学会の様子

発掘調査によって昔の様子の一端を垣間見ることが出来ました。まだまだ多くの歴史が地面の下には眠っています。これからも雲仙市の埋蔵文化財を大事に守っていきましょう。



江戸時代の陶磁器



昭和のガラス瓶

(トリスウヰスキーノ)

雲仙市管内図

平成十七年十月

